

## 山の学習支援事業プログラムの実施例

対象プログラム No.5 森で生きる野生動物の世界を見る

学校名	土佐塾中学・高等学校
学年・生徒数	8名（中学2年 1名、高校2年 7名）
実施場所	土佐塾中学・高等学校（理科室）、学校近くの森
目標	学校周辺の環境を知り、森林の役割について探求する。
実施教科	課外授業
関連教科	理科
準備物	児童…服装は長袖長ズボン（ケガ防止、虫対策） 学校…動物観察用自動カメラ×3台、虫よけスプレー、軍手

実施項目	野生動物の観察（カメラ設置）
対象プログラム	No.5 森で生きる野生動物の世界を見る
所要時間	約 60 分 ※雷が鳴り始めたため早めに終了した。
実施内容	<p>・事前準備</p> <p>講師は事前に実施場所（学校近くの森）で下見を行い、アナグマの巣穴らしき場所を見つけた。</p> <p>教員と講師で観察用自動カメラの設定を行った。</p> <p>・講師挨拶、実施内容の説明</p> <p>理科室に集合し、講師（横倉山自然博物館 2名）が現場にアナグマの痕跡があったこと、現在は子育ての時期であること等を説明し、どのような場所に生息しているか（カメラを設置したら良いか）を一緒に考えようと促した。</p> <p>また、以前に設置した鳥の巣箱について、その後の状況を生徒に聞いた。「約 10ヶ所設置したが卵を発見したのは1ヶ所だけだった、羽化しなかった、鳥の種類は不明。」との回答だった。講師が、設置した場所が適切だったかなど再考してみよう、と提案した。</p> <p>・森の散策とカメラの設置</p> <p>軍手を着用し、虫よけスプレーをして、現場に移動した。（徒歩 6～7分程度）道中、昨年度に設置した巣箱の場所を確認しながら進んだ。</p> <p>講師は、「落葉樹があれば落ち葉が腐葉土となり良い土壌ができる、アナグマの餌となるミミズも育つ」など森の状態等を説明しながら歩いた。</p> <p>アナグマの巣穴と思われる場所に着き、講師が生徒にカメラの設置場所や角度等を考えさせ、生徒が取り付け作業を行った。場所を移動し、動物が餌を探すために土壌を掘り返した跡のような状態を発見し、カメラを設置した。（合計 3ヶ所）</p>

・振り返りと今後の予定の確認

教室に戻り、今日の振り返りを行った。

教師が今後の予定を確認した。(次は10月に実施、録画データの確認など。  
夏期休暇中は講師と教員でカメラの状態を確認する。など。)

実施風景



補足

その他、プログラムの

・校舎が山の上に位置しており、2014年より学校周辺の野生動物について調査をしている。

特徴

・カメラデータ確認（講師指導）は、10月、12月、3月に行う。